

自然を感じ、学び、活かし、その暮らしを次世代へ

志賀高原ユネスコエコパークは、長野県の山ノ内町、高山村と群馬県中之条町、草津町、嬬恋村の2県5町村で構成し、「志賀高原」を中心とするエリアで、一帯は上信越高原国立公園として雄大な自然が広がっています。

私たちは、自然環境と豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶとともに、経済・社会的にも持続可能な発展を目指す地域のモデルとして、3つのエリアで様々な取り組みを進めています。

核 心 地 域

国立公園の特別保護地区でもあり、ほとんど人為の影響なく自然が保たれ、生物多様性の保全上最も重要とされている地域



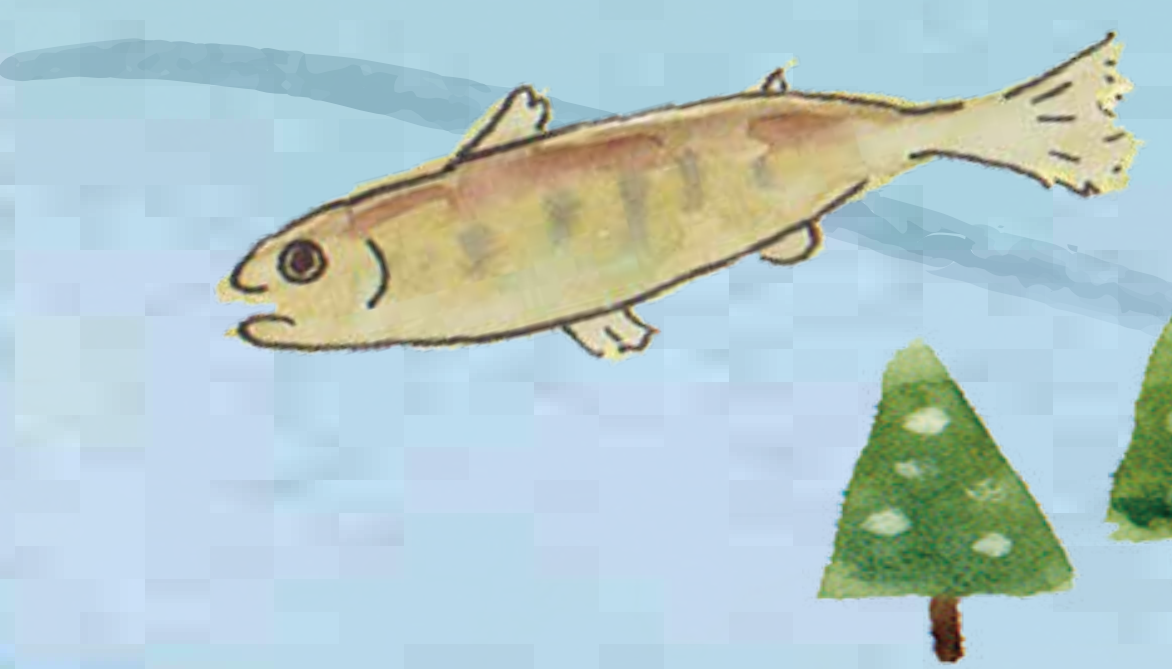
オコジョ



ゲンジボタル

緩 衝 地 域

環境学習、野外活動、調査研究、レジャー・観光に利用できる地域



シガアヤメ



移 行 地 域

人が暮らしを営み、自然の恵みを受けながらさまざまな社会活動や地域社会の発展を目指す地域



水 の 恵 み

江戸時代、河川の水量が少なく干ばつに苦しんでいた先人たちは志賀高原の雑魚川に水源を求め、約50kmにおよぶ堰を完成させました。
この恵みの水が町のブランド農産品となる水田や果樹を育てています。
また、水源地となる雑魚川は厳守イワナが生息する貴重な自然環境の中にあり、地元住民による厳重な水源管理のもとで保全が続いています。



根 曲 が り 竹

志賀高原に自生する根曲がり竹(チシマザサ)の新芽を食用として利用し、たけのこ汁や天ぷらなど様々な調理をして食しています。
また、江戸時代よりこの竹を利用した竹細工品が生活用品や子供の玩具としても使われてきました。須賀川地区ではこの地に根づく伝統工芸を次世代へ引き継ぎ取り組みを行っています。



ホ ホ づ み り

町内小学校では、1・3年生が志賀高原で生まれたドングリを苗から育て、2年生がコメツガを採取し、4年生が芽を出し始めた苗を育苗ポットに移植し、5・6年生がその苗をスキー場跡地に植樹するといった育苗活動を行っています。
この段階的な活動を通して、地域資源の魅力に気づき、様々な体験を通して生きる力を育むなど自然と共存した活動を実施しています。



環 境 学 習 プ ロ グ ラ ム

志賀高原観光協会では「環境学習プログラム」を構築し、町内小学生の参加や国内のユネスコスクールなどESDに対応した新たな学習モデルづくりを進めています。
地域を知り、未来のために無理なくできることを少しずつ、それらの取り組みを長く続けられることが、ユネスコエコパークの価値につながります。



志賀高原ユネスコエコパーク

Shiga-highland
Biosphere Reserve

志賀高原ユネスコエコパークに関すること

長野県山ノ内町観光商工課ユネスコエコパーク推進室
TEL:0269-33-1107 FAX:0269-33-1104

志賀高原環境学習プログラムに関すること

志賀高原ガイド組合
TEL:0269-34-2133 FAX:0269-34-2480

